A decorative graphic on the right side of the page features three circles of varying sizes and colors (green, light green, and yellow) connected by thin lines. The circles are positioned at different heights, with the largest yellow circle at the bottom right and the smallest green circle at the top right. Lines extend from the circles towards the left, crossing the text area.

横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
太陽の子 不動下保育園

平成 29 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	12
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	13
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	14
評価領域Ⅵ 経営管理.....	15
利用者家族アンケート分析.....	16
利用者本人調査.....	20
事業者コメント.....	22

◆ 実施概要 ◆

事業所名	太陽の子 不動下保育園
報告書作成日	平成29年3月17日 (評価に要した期間4ヶ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価	【実施期間：平成28年11月7日～平成29年1月10日】 <ul style="list-style-type: none">職員会議で趣旨を伝え、保育士、看護師、調理師等すべての職員に配布し、記入した。個々の自己評価をもとに3グループに分かれて項目ごとに確認後、園長、主任で確認をしながらまとめ、全職員に周知した。
2. 利用者家族 アンケート調査	【実施期間：平成28年12月1日～12月15日】 配付：全園児の保護者（43家族）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査	【実施日：平成29年2月21日、2月23日】 ■第1日目 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長） ■第2日目 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午 後：職員ヒアリング調査 (主任・保育士・非常勤保育士・看護師・栄養士) 事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査	【実施日：平成29年2月21日、2月23日】 <ul style="list-style-type: none">訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。

◆ 評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

太陽の子不動下保育園は、JR根岸線「根岸駅」から徒歩約8分、6階建てビルの1・2階にあり、平成26年（2014年）7月、長谷川キッズライフ株式会社により開設されました。周辺には、10階建て程度の高層住宅が、数多く立ち並んでいます。

園の施設は、事務室・厨房などが1階、保育室はすべて2階にあります。木のぬくもりを感じさせる造りで、床材は転んでもケガをしにくいクッション性のあるものとし、保育室のドアは、指を挟まれないよう切り欠きを設けるなど安全性にも配慮しています。1階事務室の隣に、人工芝を敷いた園庭があります。

定員は50名（生後57日～5歳児）で、開園時間は、平日7時30分～20時、土曜日7時30分～18時30分です。

保育理念を「のびのび すくすく にこにこ 保護者・地域・保育園が手を取り合い、笑顔で見守るなか、子どもたちは、たくさんの“大好き”に出会い、こころとからだをすこやかに育てゆきます。」と定め、保育方針を次のようにしています。

- ・安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認め合いながら生活します。
- ・整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。
- ・様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。
- ・いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。
- ・保護者・地域・保育者みんなで感動をわかち合い、子どもの成長を一緒に笑顔で見守ります。

保育目標は、次の通りです。

- ・個性をのびのびと発揮する子ども
- ・たくさんの“好き”を見つけ、すくすくと育つ子ども
- ・“違う”を楽しみ、友達とつながる子ども

1. 高く評価できる点

●子どもたちは、のびのびと遊びながら、さまざまな経験を積んでいます

天気の良い日は、散歩や公園での遊びなどで、子どもたちは思いっきり身体を動かして遊んでいます。ドッジボール・氷鬼など、ルールのある遊びで友達との関わり方を学び、負けても泣かずに応援に回る姿も見られます。室内でも、リトミックやマット運動・跳び箱など身体を動かす機会があります。

室内の自由遊びでは、ブロック・積み木・絵本読みなど、好きな遊びに熱中しています。何人かが集まってままごと遊びをしたり、ブロックで大きな家を組み立てたりしています。1人で声を出して絵本を読んだり、2、3人で同じ絵本を一緒に読んだりしています。

全クラスに食育計画があり、食材に触れたり、クッキングの時間を設けたりしています。ベランダのプランターでトマトを育て収穫して食べたり、稲を育て、実った米をご飯にして食べるまでの過程を経験しています。また、日本の郷土料理や諸外国の料理が昼食として出される日が月1回ずつがあり、世界にはさまざまな地域や国があることを子どもたちは学んでいます。

朝夕の合同保育の時間や、複数のクラスで一緒に散歩に出かけるときなど、日常的に異年齢児同士の交流があるほか、月1回、園全体で異年齢児交流保育の日を設けています。5歳児クラスの子どもたちが0歳児の保育室に行ってお世話をしたり、一緒に遊んだり、幼児が乳児に楽器の使い方を教えたりしています。

また、5歳児クラスでは、午睡をしなくなる年明け頃からは、「おそうじチャレンジ」として、廊下の雑巾がけや、玄関にある全クラスの靴置き場の掃除などをおこなっています。

さまざまな活動を通じて、子どもたちは、自分の好きなことを見つけ、のびのびと過ごしています。

●職員は、より良い保育を目指し、努力しています

職員は、園内研修や本社がおこなう研修、横浜市などがおこなう研修に参加しています。また、年度初めに、自己目標を設定し、達成度評価をおこなうなど自己研鑽に努めています。研修で得た情報などを職員間で共有し、例えば、子どもの動線を考えて机や戸棚の配置を変更するなど、実際の現場に応用しています。また、園内研修は、年度初めに月ごとのテーマを決めて実施していますが、その時々課題や問題点なども追加して話し合っています。日々の保育の中でも、活動内容によっては、他クラスの部屋を使えるようにクラス担任同士で話し合うなど、連携してより良い保育となるように努めています。

2. 独自に取り組んでいる点

●英語に親しむ時間や絵本読み聞かせの時間を設けています

月2回、専任講師による「ふぁんぱりん」という英語の時間があります。0歳児クラスから5歳児クラスまで、年齢に合わせた遊びの中で、子どもたちが英語に親しむようなプログラムとなっています。また、「絵本巡回プロジェクト」として、保育士が絵本読み聞かせをする時間を設けています。年齢や発達に合わせた絵本を系列園間で順繰りに回し、子どもたちが普段目にしない絵本を読み聞かせすることで、子どもたちの関心や興味の範囲が広がるようにしています。

3. 工夫・改善が望まれる点

●地域の子育て支援に取り組むことが望めます


開園後約2年半ですが、地域の子育て支援として、一時保育を実施しているほか、地域の親子が授乳やおむつ替えができるよう場所を提供しています。しかし、まだ、園庭開放や交流保育、育児講座、相談事業などをおこなうには至っていません。子育て支援へのニーズがあることは、園としても把握しているので、何かから始めるか、いつからおこなうかなど具体的な計画を立てて取り組むことが望めます。例えば、園のすぐ近くにある公園で、園児・保育者と地域の親子と一緒に遊ぶ機会を、日時を決めて設けることなどが考えられます。


◆ 分類別評価結果 ◆





3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある


評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重


評価分類 I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果 
<ul style="list-style-type: none"> 保育理念を「のびのび すくすく にこにこ 保護者・地域・保育園が手を取り合い、笑顔で見守るなか、子どもたちは、たくさんの“大好き”に出会い、こころとからだをすこやかに育てゆきます。」と定め、保育方針を次のようにしています。 <ul style="list-style-type: none"> 「安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認め合いながら生活します。」 「整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。」 「様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。」 「いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。」 「保護者・地域・保育者みんなで感動を分かち合い、子どもの成長と一緒に笑顔で見守ります。」 保育目標は、次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 「個性をのびのびと発揮する子ども」 「たくさんの“好き”を見つけ、すくすくと育つ子ども」 「“違う”を楽しむ、友達とつながる子ども」 入社時の本社研修で、保育理念・保育方針・保育目標を説明しているほか、毎年度初めの職員会議で、園長が全職員に説明しています。 保育課程は、子どもの最善の利益を第一義にし、保育理念・保育方針・保育目標を踏まえて作成しています。また、保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。保護者には、年度初めのクラス懇談会で、年間指導計画などの説明はしていますが、保育課程の説明はしていません。今後は、保育課程も入園時や年度初めに説明することが望まれます。 職員は、活動や遊びの中で、子どもの表情や態度、仕草などから興味や関心を汲み取り、適切な対応をするようにしています。また、言葉で自分の気持ちを伝えることができる子どもからは、丁寧に聞き取るようにしています。 指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるよう配慮し作成しています。また、子どもの状況や様子に応じて、その日の活動の変更や、週案の見直しなどを行っています。 	


評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 入園前に、保護者と面談しています。あらかじめ保護者に、子どもの生育歴や家庭での様子・家庭の状況などを記入してきてもらい、面談の際に、詳しく聞き取っています。 • 保護者との面談の際に、子どもの様子を把握しています。 • 保護者から提出された資料や面談時の記録は、個人別にファイルし、事務室の決められた書庫に保管しています。 • 短縮保育（ならし保育）は、保護者と相談し、個別に対応しています。 • 乳児クラスは、所定の複写式ノートを用いて、毎日保護者と連絡・情報交換をしています。幼児クラスは、自由形式のノートに、毎朝の体温と帰りの迎え予定時刻を記入してもらっています。必要に応じ、連絡事項などの記入をしています。 • 0歳児クラスから1歳児クラスへ進級の場合、クラスの人数が増加するので、進級児が不安にならないよう、年度初めにはフリー保育士を優先して配置するなどの配慮をしています。 • 子どもの発達や状況に応じて、クラスごとに月間指導計画・週案の作成・評価・見直しをしています。 • 登降園時の保護者との会話や、行事後のアンケート結果などを考慮し、指導計画に反映させるようにしています。 	


評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保健衛生マニュアルに基づき、毎日掃除をおこない、屋内・屋外とも清潔に保っています。 • 各保育室に空気清浄機を設置しています。また、換気設備を24時間稼働させているほか、午睡の前後などに窓を開けて空気の入換えをしています。 • 各保育室に温湿度計を設置し、職員が適切な温湿度となるように調整しています。冬期は、必要に応じて濡れタオル等を用いて加湿しています。また、0歳児室・1歳児室は床暖房設備を備えています。 • それぞれのクラスの音が、お互いのクラス活動の妨げにならないよう、あらかじめ保育士間で話し合い調整しています。特に、2歳児室と3歳児室の間は、大人の腰高くらいの仕切りだけなので、活動内容によっては、ほかのクラスの部屋を使うこともあります。 • 乳児用トイレに隣接して沐浴設備があります。また、乳児トイレ・幼児トイレ・園庭に、温水シャワーを設置しています。 • 乳児クラスでは、低い棚で仕切ったり、カーペットで区切るなどしてコーナーをつくり、子どもが落ち着いて遊ぶことができるようにしています。 • 1歳児室では、食事と活動スペースを背の低い戸棚で区切っています。ほかの保育室は、食事後テーブルを片づけて午睡スペースを確保するなど、時間によって使い分けています。 	


評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・乳児については、毎月個別指導計画を作成しています。幼児は、特別に支援を必要とする子どもの場合、個別指導計画を作成しています。 ・個別指導計画は、定期的な見直し以外にも、状況に大きな変化があった場合は、月の途中でも変更・見直しをしています。離乳食やトイレトレーニングの開始時期など、保護者と話し合い、個別指導計画に反映させています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望などを、決められた書式に記録しています。 ・子どもの記録を個人別にファイルし、事務室の書庫に保管、全職員が必要なおきに見ることができるようにしています。 ・日々の申し送り事項は、職員連絡ノートで行っています。また、進級時には、重要な申し送り事項を書類で連絡するほか、旧担任と新担任が話し合う時間を十分に設けています。 	


評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもの指導について、職員会議で話し合っています。記録や情報は、個人別にファイルし、保管しています。 ・職員は、特に配慮を要する子どもや障害のある子どもの保育に関する研修に参加しています。参加した職員は、職員会議などで内容を発表するとともに、研修報告書を作成、回覧するなど、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・障害の特性を考慮した個別指導計画を作成しています。また、保護者の同意を得て、横浜市中心部地域療育センターから、助言や情報を得ています。 ・虐待の定義は、職員会議などで園長が説明しています。虐待が明白になった場合や、虐待が心配されたり見守りが必要な場合には、中区こども家庭支援課に通告・連絡し、連携して対応することとしています。 ・看護師が、アレルギー疾患に関する知識や情報を、全職員に説明しています。また、各保育室に、子どもに食物アレルギー症状が起こった場合の対応手順書を備えています。 ・食物アレルギーの子どもの場合、除去食用献立表を作成し、保護者のチェック・承諾の印をもらっています。除去食を提供する場合は、色の違った専用のトレーに名札と顔写真を添付しています。園長と担任の2名以上で確認し、調理職員が直接子どもの席へ届けています。 ・給食で、諸外国の料理、日本の郷土料理を毎月取り入れ、さまざまな国や地域があることを子どもたちが理解できるようにしています。また、生活発表会で、子どもたちがいろいろな国の衣裳を着て「小さな世界」という劇を演じました。 	


評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 苦情解決規程を定め、苦情の受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長であることや、第三者委員（2名）に、直接苦情を申し立てできることなどを入園のしおり（重要事項説明書）に記載し、保護者に周知しています。また、概要を玄関に掲示しています。 • 玄関に意見箱を設置しています。年度末に全保護者に対しアンケートを実施しているほか、行事のあともアンケートをおこなっています。また、クラス懇談会や運営委員会などで要望や意見を聞いています。 • 外部の権利擁護機関として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会を紹介しています。 • 要望や苦情などがあった場合は、会議などで報告し、職員と話し合い、解決策を立てています。また、要望・苦情の内容をファイルし、全職員が情報を共有できるようにしています。さらに、本社での園長会議で、系列園での苦情例を得た場合にも、職員会議で周知しています。 	


評価分類Ⅱ－1 保育内容〔遊び〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 各保育室は、子どもたちが自分でおもちゃや絵本などを取り出せるように設定されています。年度初めと年度の半ばに、各クラスのおもちゃや教材等を見直し、保育室の構成も子どもの動線を考えて机や棚の配置を見直し、子どもの発達や現状にふさわしく再構成しています。子どもの興味に合わせて他クラスのおもちゃを借りてきたりもしています。さらに、乳児の場合は、子どもの成長に合わせて、その都度おもちゃの種類を変えています。 • 系列園の中で絵本を巡回し、年齢や発達に合わせて数多くの絵本に親しめるようにしています。 • 「ふぁんばりん」という専任講師による英語の時間を設け、0歳児クラスから5歳児クラスまで年齢に合わせて英語や外国人に親しめるようにしています。 • 子どもたちの椅子は、子どもの成長に合わせて肘付き椅子、肘無し椅子などを使用しています。4歳児・5歳児クラスでは姿勢を意識するように背もたれ無しの椅子を使用しています。 • 子どもたちは自由に遊ぶ時間には、何人かでもまごとをしたり、1人で声を出して絵本を読んだり、2、3人でおしゃべりしながら同じ絵本を見たり、4、5人でブロックを組み立てたり、それぞれ遊びに集中しています。年齢に応じてゲームなどの一斉活動も取り入れています。鬼ごっこは単純な追いかっこから発展し、少しずつルールができ、幼児クラスではルールが複雑になっていきます。負けても泣かずに応援にまわる、ということも学んでいます。 • 園のベランダで野菜作りなどを行っています。4、5歳児クラスで発泡スチロールのケースで稲を育て、成長を観察しました。稲がご飯になるまでの過程に興味を持つように保育にとりいれています。4歳児クラスではトマトを育て、収穫し、トマトが苦手な子どももトマトを育てることを通して興味を持ったり食べてみようとしたりする活動につなげています。また、カタツムリやクワガタを飼育・観察し、図鑑で育て方や餌などについて調べました。 • 子どもの年齢などにあわせて、リトミックを取り入れたり、自由に絵を描けるようにしたりしています。幼児クラスでは保育室に画用紙や裏紙、ティッシュ箱、セロテープ、クレヨン、折り紙などを子どもが取り出せるように置いています。5歳児は一人一人が道具箱を持っていて、自由に使うことができます。 • 子ども同士のけんかに関しては、0、1歳児クラスではトラブルがおきないようにおもちゃを人数分そろえるなどしています。2歳児以上のクラスでは、保育士が間に入って両者の言い分を聞いたりし、年齢が高くなるにしたがって、ケガのないように見守りながら、子ども同士で解決ができるように支援しています。 • 朝の自由に遊ぶ時間や複数のクラスで散歩に行ったりするときに異年齢の交流があるほか、月に1回異年齢児交流保育の時間を設け、乳児クラスと幼児クラスと一緒に遊んでいます。5歳児クラスの子どもが0歳児クラスに行ってお世話をしたり、一緒に遊んだり、幼児が乳児に楽器の使い方を教えてあげるなどしています。また、幼児クラスは異年齢で外遊びをし「だるまさんがころんだ」「鬼ごっこ」などの集団ゲームと一緒にしたりしています。 • 天気の良い日には、積極的に園外に出かけ、公園で走ったりゲームをしたりして、思いっきり身体を動かしています。室内では発達段階に応じてマットや跳び箱などの運動用具を活用しています。 	


評価分類Ⅱ－1 保育内容〔生活〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 全クラスの食育年間計画があります。食材を見たり、触れたり、クッキングをしたり、食事のマナーを知ることなども計画に入れています。それらをクラスごとに実践するほか、毎月1回食育会を開き、乳児クラスと幼児クラスに分かれて、調理職員も参加して食事のマナーを見直したりクッキングをしたりしています。 • 日本の郷土料理を月に1回、諸外国料理を月に1回メニューに取り入れて、子どもたちの食への関心を高めています。 • 旬の食材を取り入れています。北海道に広大な自社農園があり、かぼちゃやジャガイモなど、採れたての新鮮な野菜が送られてきます。行事食では特別に季節感を意識してメニューを考えています。 • 安全性に関しては、できるだけ国産のものを使用しています。また、食器は離乳食の段階から、高強度磁器のものを使用しています。 • 毎月1回の給食会議で各クラスの様子を伝え合い、献立や盛り付けなどについて話し合っています。 • 献立はサイクルメニューを取り入れていて、残食の多かったメニューは次のときに切り方を変えたり、彩りを考えて黒ゴマを白ゴマにして見た目を変えたり、という工夫をしています。 • 給食日より毎月その季節の旬の野菜を紹介したり、自社農園の野菜について知らせたりしています。また、定期的に人気レシピを提示し、年に1回実施している保育参加の際には、実際に給食を食べてもらい、園で配慮していることなどを知らせています。 • 午睡のときはカーテンをひいて顔が見える明るさにして保育士が見守り、子どもが落ち着いて眠りにつけるようにしています。早めに目覚めた子どもは絵本を見るなど静かに過ごすようにしています。また5歳児クラスは小学校への準備段階として1月頃から午睡をしなくて、自発的に玄関などの掃除をする「おそうじチャレンジ」などの活動をしています。 • トイレトレーニングは子ども一人一人のペースに合わせて、ゆとりをもって対応しています。1歳児クラスからトイレに興味を持つように配慮し、家庭との連携を密にして、トレーニングをすすめています。 	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「保健衛生マニュアル」があり、日々の健康状態を観察する要領が記されています。マニュアルに基づいて一人一人の健康状態を把握しています。 ・健康台帳のほかに保護者との連絡用に個別の「発達の記録」を作成していて、身長体重測定や予防接種、内科健診の結果などが記録されています。毎月１回、保護者に「発達の記録」を渡し、身長体重測定の結果を見てもらっています。その際に新たに予防接種などをした場合には書き込んでもらっています。 ・健診前に保護者に日程を伝え、嘱託医に質問したいことがあれば出してもらっています。健診後に伝達事項がある場合には、異常の有無などを書いて保護者に渡し、必要に応じて話し合いをしています。 ・「保健衛生マニュアル」に感染症発症時の対応として、職員への周知・保護者への周知についても記されています。保護者に対しては「入園のしおり」に体調不良時の対応と感染症、登園基準について記載しています。 	


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理に関しては「保健衛生マニュアル」に必要事項が記載されています。マニュアルは系列園の看護師が集まる会議で見直し、園の看護師が職員会議で全職員に周知しています。 ・園では年度の初めに衛生管理に関する全般的な園内研修をおこないます。感染症・嘔吐処理などは毎年園内研修を実施し、看護師が症状や対処法を具体的に説明し、実技指導をしています。 	


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアル」が整備されています。マニュアルは事故や災害に対応していて、年度初めに読み合わせをして職員間で周知しています。 ・毎月１回避難訓練を実施しています。毎回それぞれ火災、地震、不審者などを想定して、通報、連絡体制の予行演習をおこなっています。また、年に１回、地域の避難場所への誘導や保護者への引渡し訓練を実施しています。 ・子どものケガ等に関しては、未然に防いだ場合のヒヤリハット報告、園内で対処できたインシデント報告、病院で受診した事故報告、と３段階に分けて記録しています。インシデントは送迎時等に保護者に伝え、病院で受診する場合は速やかに保護者に連絡しています。首から上のケガは軽症に見えても必ず受診しています。 ・事故については会議や連絡ノートなどでその日のうちに職員に伝えます。職員会議で再発防止策を検討し、実行しています。また、クラスごとの「ヒヤリハット・ケガノート」に、毎月の集計と振り返り、園長のコメントを記載し、年に４回の園内研修の際に全職員で共有しています。事故防止策の一つとして「安全チェック表」を作成し、職員が日々２０項目の配慮事項をチェックしています。 ・不審者侵入防止対策として警備会社と契約し監視カメラを設置しています。玄関は常に施錠しており、保護者はＩＣカードで出入りします。園外に出かけるときは園庭の出入り口にも鍵をかけています。 	

評価分類Ⅱ－3 人権の尊重	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 職員は子どもの人権や接し方等について、本社採用時点での入社研修で学んでいます。また、園では、子どもに対する言葉遣いなどで気になることがあったときは、職員間で注意しあっています。 必要な場合に子どもに威圧感を与えずに話し合える場所として、事務室を使用しています。 「コンプライアンスマニュアル」と「太陽の子保育園・プライバシーポリシー」を個人情報の取り扱いについてのガイドラインとし、全職員に周知しています。保護者に対しては入園のしおりに「太陽の子保育園・プライバシーポリシー」を記載し、同意書を提出してもらっています。個人情報に関する記録は事務室の施錠できる場所に保管、管理しています。 遊びや行事の役割などで性別による区別をしていません。グループ分けは子どもたちの気持ちを尊重して決めています。 	


評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 入園説明会やクラスごとの懇談会で保育理念、保育方針を説明しています。理念は「のびのび、すすく、にこにこ」としていて、今回の保護者アンケートでは、90%の保護者が保育理念、保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。 保護者懇談会は5月と3月に実施しており、ほとんどの保護者が出席しています。 毎年春に保育参観、3月に保育参加の期間を設けています。その期間に参加が難しい保護者は、希望の日時を配慮しています。 年に1回全家庭と個別面談を実施するほか、保護者から希望のあったときや職員が必要だと判断したときには、随時個人面談を実施しています。 「保護者からの相談・対応ノート」に口頭の相談、連絡ノートでの相談、懇談会で出た相談など、対応した相談事項全てを収めており、継続的なフォローに役立っています。 毎月1回園だよりとクラスだより、給食だよりを発行しています。また、本社から毎月1回の「ほけんだより」、園からは季刊の「ほけんだより」を発行しています。 園では日々の子どもの様子を写真に取り、データで提供しています。保護者はそれをチェックして契約会社を通して購入することができます。子どもたちの様子はブログでも伝えています。 運営委員会に各クラスから保護者代表が委員として出席し、コミュニケーションを図っています。 	


評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">• 幼保小の交流会で地域の子育て支援ニーズについて話し合っていますが、地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するための具体策は特には講じていません。• 一時保育を実施していますが、「地域の子育て支援のニーズに応えていく」という園の方針の実現のためにも、今後は、地域の子育て支援ニーズを把握していく取組が期待されます。	

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">• 育児相談は随時受け付けていますが、定期的な相談日は設定していません。今後は定期的に相談日を設け、相談日や園の専門性を活かした育児に関する情報を地域に掲示したり、回覧するなどして周知することが望まれます• 地域の関係機関や団体等はリスト化して、職員が共有しています。関係機関や団体とは必要に応じて連絡できる関係になっています。	


評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">園の運動会、発表会に地域の人を招待しています。ハロウィンなどの行事の際に、園の近隣の会社や店舗に子どもたちが訪れたり、園のクリスマス会のサンタクロースになってもらうなど、地域の人々との交流をおこなっています。ほかの保育園と連絡し合って公園で一緒に遊んだり、系列の保育園に遊びに行ったり、また、中区主催の「保育園駅伝大会」に参加するなどして、交流しています。5歳児クラスは近隣の小学校から招待される「給食すこやか交流会」に出かけたり、小学校の水族館を見学に行ったり、小学校から遊びに来てくれたりなど、小学校との交流があります。地域住民を対象に、随時授乳やオムツ替えができるように園の一部を開放しています。	


評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">園のホームページで保育内容等必要な情報を提供しています。また、中区主催の合同育児講座にて、園がブースを一つもらい、入園希望者のために園の紹介をし、パンフレットを置いています。幼保小教育交流事業の「中区保育所利用申請説明会」でもパンフレットを置いて園の情報を提供しています。園に対する問い合わせには常時対応できるようにしています。見学希望者には、園としては子どもたちの主活動の時間の見学を勧めていますが、見学者の都合に対応しています。	

評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">ボランティア受け入れのためのマニュアルを作成しており、受け入れの準備はありますが、現在のところ受け入れの実績がありません。実習生受け入れのためのマニュアルがあり、それに基づいて実習生に園の方針等を説明しています。実習生受け入れにあたり、職員には基本的な考え方等を説明しています。保護者に対しては運営委員会で実習生受け入れのメリット、デメリット等を説明しています。実習生とは日々主任と担任がその日の活動について話し合い、実習の最終日には園長、主任と実習生で反省会をおこなっています。	


評価領域V 人材育成・援助技術の向上


評価分類V-1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">一人一人の職員が、毎年自己目標の設定をしています。年度初め、中間期、年度末に園長と面談し、目標設定と達成度評価をおこなっています。園内研修を毎月おこなっています。年度初めに月々のテーマを設定し、必要な職員が受講できるようにしています。職員は、本社がおこなう研修や、横浜市などがおこなう外部研修に参加しています。外部研修に参加した職員は、職員会議などで内容を発表するとともに、研修報告書を作成、回覧するなど、全職員が情報を共有できるようにしています。また、研修で得た情報をもとに、子どもの動線を考えて机や棚などの配置を変更するなど、実際の現場に応用しています。マニュアルは、事務室に備え、非常勤職員も見ることができるようになっています。また、日常の保育業務に関してまとめたスタッフハンドブックを、非常勤職員にも配布しています。	


評価分類V-2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">外部研修などで、他園の工夫・改善した良い事例を得た場合は、会議で報告しています。また、園長や主任が系列園での工夫・改善した情報を得た場合も、会議で職員に周知しています。横浜市中部地域療育センターから、特に配慮を要する子どもや障害のある子どもの保育に関し、助言や指導を受けています。指導計画に関する評価・反省は、計画で意図したねらいと関連付けておこない、子どもの意欲や取り組み姿勢がどうであったかなどを重視し、次の週案・月間指導計画・年間指導計画の作成に反映させています。また、職員は、自己目標の達成度評価における反省点などを踏まえ、次年度の自己目標設定につなげています。保育所としての自己評価は、毎年度末に、保育理念・保育方針・保育目標に沿っておこなっています。保育所としての自己評価結果を、園の玄関に掲示し、保護者に周知しています。同時に、保護者アンケートの結果も掲示しています。	

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">本社が、スターター・プレーヤー・リーダー・主任など、経験年数や職位に応じた研修計画を作成し、それぞれのレベルの役割や期待水準を明記しています。日常の保育や保護者との対応など、それぞれの担当者が、責任を持って対応するようにしています。判断に迷ったり、困ったりしたときは、主任や園長に連絡・相談するよう指導しています。会議の場だけでなく、いつでも主任や園長に、改善提案や意見を述べるができるようにしています。園長は、年2回、職員と個別面談し、満足度・要望などを把握しています。そのほか、年1回、職員が、要望・意見などを直接本社に伝えることができる体制があります。	

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスマニュアルを作成し、職員に配布するとともに守るべき事項などを説明しています。 ・運営委員会で、園の状況を報告し、議事録を玄関に掲示、保護者に周知しています。 ・ほかの施設での不正・不適切な事例を入手した場合は、職員会議などで報告し、職員に周知・啓発しています。 ・ゴミの分別をしたり、コピーはできるだけ裏紙を使ったりしています。また、牛乳パックや段ボールなどを子どもたちの制作の素材に利用しているほか、保育士が手づくりで、小さな腰かけ・テーブル・クッションなどにしています。 ・無駄な電灯をこまめに消したり、トイレの照明を自動点滅にしたり、省エネルギーに努めています。また、中区土木事務所職員の指導のもと、子どもたちが近隣の公園で、花の種をまいたり苗を植えたりして、緑化に協力しています。 ・園の運営方針や事業計画などに、環境配慮への考え方、取組を明文化するには至っていません。 	

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフハンドブックに、保育理念・保育方針・保育目標を記載しているほか、玄関にも掲示しています。職員会議などで、随時、保育理念・保育方針・保育目標を説明しているほか、行事の企画にあたっては、保育理念などに沿っているかどうかを確認しています。 ・園長は、朝夕の送迎時にできるだけ保護者とコミュニケーションを取るようにしています。また、クラス懇談会や運営委員会などで、意見交換しています。例えば、園外保育（遠足）を、平日・土曜日のどちらにするか、保護者の意見を聞いています。 ・重要事項が決定されたときは、職員会議などで目的・決定理由・経過などを十分に説明しています。保護者には、掲示や文書で知らせています。 ・本社がおこなう研修の中に、主任へのスキルアップのための研修として、次期主任研修を設け、計画的に主任を育成しています。 ・主任は、日々現場に出て個々の職員の業務状況を把握しているほか、クラス日誌などからも確認しています。個々の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導を行っています。 ・主任は、積極的に職員に声かけし、その日の職員の様子・状況を判断しています。また、勤務シフトの作成にあたっては、個々の職員の都合や状況を考慮し、精神的・肉体的に良好な状態で業務を遂行できるようにしています。 	

評価分類VI-3 効率的な運営	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある情報は、本社でおこなう園長会議で得ています。 ・重要な情報や園長会議での決定事項は、主任に伝えるほか、必要に応じ、職員会議で全職員に知らせています。 ・本社が、中期経営計画を作成しています。それに基づき、運営やサービスの新たな仕組みを検討しています。 ・園長は、本社がおこなう園長研修で、労務管理・人材育成などに関する外部の専門家の講義を受け、園の運営に活かすようにしています。 	

◆利用者家族アンケート分析◆

【実施概要】

- 実施期間：平成28年12月1日～12月15日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付43件、回収27件、回収率62.8%

【結果の特徴】

【問1】の「園の保育目標や保育方針を知っているか」については、89%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、そのうち92%の保護者が、保育目標や保育方針について「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】の「入園する時の状況の6項目のうち、「園の目標や方針の説明」「入園時の面接などで子どもの様子や生育歴などを聞く対応」「費用やきまりに対する説明」の3項目で、約60%以上の保護者が「満足」と答えています。

【問3】～【問7】の設問では、多くの項目で「満足」の回答が、50%を超えています。そのうち、数値の高い項目を挙げると、次の通りです。

- 問7「職員の対応」“子どもが大切にされているか”・・・74%
- 同上 “子どもが保育園生活を楽しんでいるか”・・・74%
- 問4「日常の保育（生活）」“子どもが給食を楽しんでいるか”・・・70%
- 問5「快適さや安全対策」“外部からの不審者侵入を防ぐ対策”・・・67%
- 問4「日常の保育（生活）」“昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか”・・・63%
- 同上 “子どもの体調への気配り”・・・63%
- 同上 “保育中にあったケガに対する保護者への説明、その後の対応”63%

【問3】～【問7】の設問で、「不満」「どちらかといえば不満」の回答が、多かったのは次の項目です。

- 問4「日常の保育（遊び）」“子どもが戸外遊びを十分しているか”・・・26%
- 同上 “自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動”・・・22%
- 同上 “遊びを通じた子どもの健康づくりへの取り組み”・・・15%

【問8】の総合評価は、「満足」が55.6%、「どちらかといえば満足」が40.7%（合わせて96.3%）です。

自由記述欄には、「子どもを安心して預けることができている」「一人一人をしっかりと見てくれている」などの声があります。一方、「外遊びが少ない」「午後の外遊びを増やして欲しい」「園庭が狭い」などの意見があります。毎日、一日のクラス活動の様子をホワイトボードに書き、夕方迎えに来た保護者に知らせるほか、ブログでも伝えていますが、散歩や戸外遊びなどの情報がうまく伝わっていないと考えられます。保護者がどのような情報を求めているかを把握し、対処することが期待されます。

太陽の子 不動下保育園 利用者家族アンケート集計結果

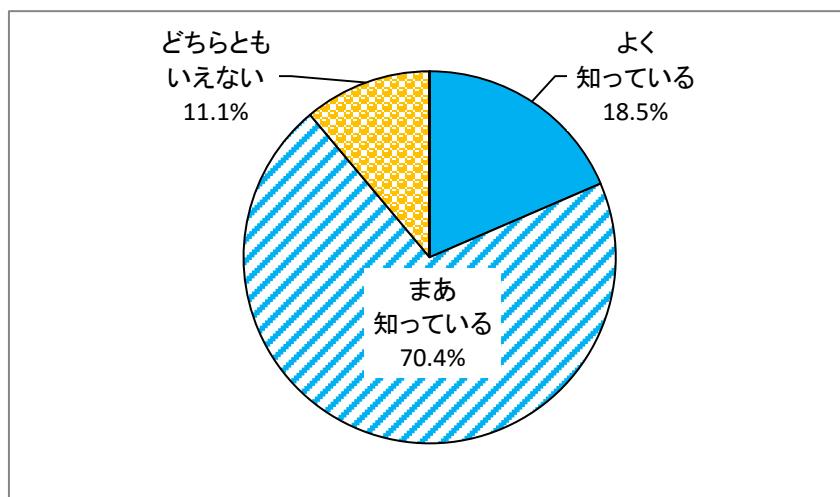
実 施 期 間	平成28年12月1日～12月15日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	43 件
有 効 回 答 数	27 件
回 収 率	62.8 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	2	5	8	6	5	1	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

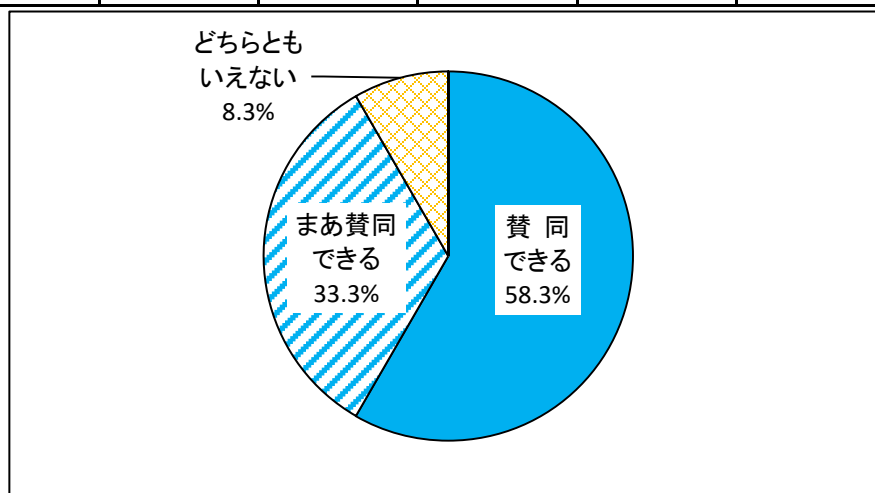
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	18.5	70.4	11.1	0.0	0.0	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	44.4	25.9	3.7	0.0	25.9	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	44.4	44.4	3.7	0.0	7.4	0.0	
園の目標や方針についての説明には	59.3	40.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	59.3	33.3	7.4	0.0	0.0	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	44.4	40.7	3.7	7.4	3.7	0.0	
費用やきまりに関する説明については	66.7	22.2	7.4	0.0	3.7	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	48.1	29.6	11.1	0.0	3.7	7.4	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	40.7	40.7	7.4	0.0	3.7	7.4	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	37.0	40.7	7.4	7.4	0.0	7.4	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	33.3	25.9	11.1	14.8	3.7	11.1	
園のおもちゃや教材については	55.5	33.3	3.7	0.0	0.0	7.4	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	37.0	29.6	22.2	0.0	0.0	11.1	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	51.9	37.0	3.7	0.0	0.0	7.4	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	40.7	37.0	11.1	3.7	0.0	7.4	

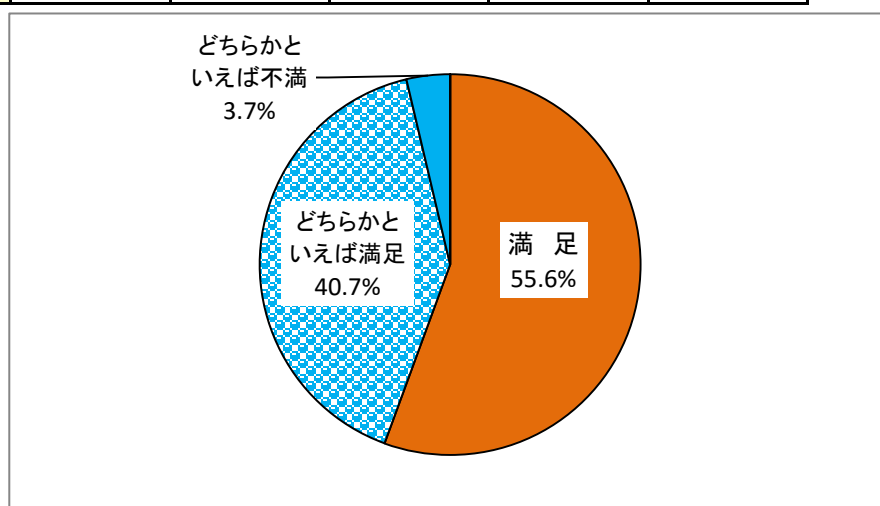
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	55.6	33.3	0.0	0.0	3.7	7.4	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.4	22.2	0.0	0.0	0.0	7.4	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	55.6	25.9	3.7	0.0	7.4	7.4	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	63.0	25.9	0.0	3.7	0.0	7.4	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	48.1	25.9	3.7	3.7	11.1	7.4	
お子さんの体調への気配りについては	63.0	22.2	7.4	0.0	0.0	7.4	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	63.0	22.2	0.0	0.0	7.4	7.4	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	51.9	29.6	7.4	3.7	0.0	7.4	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	48.1	37.0	3.7	0.0	0.0	11.1	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	66.7	22.2	3.7	0.0	0.0	7.4	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	51.9	29.6	7.4	0.0	3.7	7.4	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	51.9	25.9	11.1	0.0	3.7	7.4	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	59.3	29.6	3.7	0.0	0.0	7.4	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	55.6	29.6	3.7	0.0	3.7	7.4	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	59.3	33.3	7.4	0.0	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	59.3	37.0	3.7	0.0	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	59.3	29.6	3.7	3.7	3.7	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	74.1	22.2	3.7	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	74.1	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	48.1	29.6	0.0	0.0	18.5	3.7	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	55.6	40.7	3.7	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	55.6	40.7	3.7	0.0	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	55.6	40.7	3.7	0.0	0.0	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

- 実施日時：平成29年2月21日、2月23日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

0歳児クラスは月齢差のある子ども3人と担当保育士1名、そして看護師が必要に応じてクラスに入っています。観察日は室内でマット運動をしました。保育士が踏み台とマットを出してくると、子どもたちは目を輝かせます。保育士と看護師が子どもと手をつなぎ、踏み台の階段をのぼり、マットにジャンプして下ります。次はマットを三角にしたトンネル。これはハイハイの子どもは1人でくぐれます。次は踏み台の上にマットを敷いた山。これも歩いたりハイハイしたりで、3人とも自分で上れます。順番にやるのが難しく、待てずにどんどん上ったり下りたりする子どももいるので、保育士も看護師も大忙しです。元気いっぱい身体を動かしました。遊びが終わるとオムツ替えです。一人用のマットに寝かせ、オムツ替えが終わるとその都度マットを消毒液で拭いていました。おやつや食事は、ほとんど全介助の子どもいれば、スプーンやフォークを使って食べる子どももいます。「おちゃ！」と、お茶のおかわりを求める子どももいました。

●1歳児クラス

保育室の窓側の床にオレンジ色のテープでラインがつけてあります。この一本のラインが子どもたちが並んで立ったり座ったりするのにとても役に立ちます。朝の会は、このラインに並んで立っておこない、その後、呼ばれた子どもから順番におやつ机に行きます。走らずに歩いて行くことになっています。お散歩の前にもジャンパーを着るなどの準備のできた子どもはこのラインに座り、保育士に絵本を見せてもらいながら全員準備のできるのを待ちます。この日は6人の子どもたちが保育士2人と手をつないで出かけ、園のすぐ前にある公園の砂場で遊びました。トイレでは紙パンツとズボンをお脱ぎしてもらいますが、自分でズボンをおろす子どもやズボンに足を入れて上手にはく子どももいます。トイレでできた子どもは、保育士に「すごい！」と褒められていました。食事の前に、ラインに並んで座り、呼ばれた子どもから順番に机に行きます。保育士の「手はおひざ」の声かけで座り、当番がはりきって一人一人にエプロンを配りました。保育士が食事を配膳していると、もう、うきうきと給食の歌を歌っている子どももいます。

●2歳児クラス

朝のおやつの後、4歳児保育室に移動してマット運動です。まず保育士の掛け声に合わせて手振り、足のばしをしたあと、CDの曲に合わせて足を上げ、寝転がり、腰振りなど準備運動をします。そして大きく長いトンネルをくぐってから2段の階段を登って飛び降り、縄跳びの縄をジャンプで越え、マットででんぐり返しをします。これらの動きを順番におこない、次はこれを基本にして、階段から飛び降りるときに保育士の持っているタンバリンに手を伸ばしてタッチするなど、変化をつけていきます。

トイレは乳児トイレを使います。子どもたちは自分でズボンを下げて便座に座ります。保育士は見守り、必要ときに介助します。その後、画用紙に絵の具で絵を描き、水を含んだ筆でなぞって、線がにじんで薄い色が広がるのを楽しみました。食事は保育士が配膳しますが、子どもたちは手を膝に置き、静かに待ちます。配膳が終わると保育士が今日のメニューを読み上げ、子どもたちは大きな声で「給食の歌」を歌い、食べ始めます。保育士が「長い針が12までにしましよ」と時計の12に花丸の印をつけましたが、子どもたちはもりもり食べて12時になる前に、ほとんどの子どもは食べ終わっていました。

●3歳児クラス

朝の会のあと、前の週におこなった発表会の思い出の絵をクレヨンで描いたあと、椅子取りゲームをしました。2人の子どもが同時に一つの椅子に座ったときはじゃんけんを決めるというルールはみんなが心得ています。最後に一つの椅子になり、座れなかった子どもが泣いてしまいました。保育士は1人残った子どもに「優勝おめでとう!」、そして泣いている子どもに「2位、おめでとう!」と声をかけていました。その後、小さなプラスチックのチップと木製のレールを保育士が出してきて、自由に遊びました。泣いていた子どももなんとなく泣き止みました。子どもたちの発想で、チップを組み立てて、ボールや家の形を作ったり、輪にして自分や友達の上に載せて冠にしたりしています。レールをつなぎ合わせてループ状になると、保育士が小さな機関車や電車などを出してきます。子どもたちはそれをレールに乗せて動かして遊びます。何台かつないで走らせる子どももいます。保育士が「片付けなくてよいから、トイレへどうぞ」と声をかけるとほとんどの子どもはトイレへ行き、戻ってきて、また遊びを続けました。

食事は全員がお箸を使い、食べ終わると各自歯磨きをし、保育士が仕上げ磨きをします。

●4歳児クラス

朝の会では全員が静かにきちんと椅子に座っています。今日の当番を確認します。「はいぜん」「たおるをくばる」「つくえふき」「ごあいさつ」と、4つの役割の当番が2人ずついます。「ごあいさつ」の当番が前に出て、朝の歌、あいさつ、そして出欠確認をしてから、保育士が子どもたちと話し合いながら今日の予定をホワイトボードに書き込んでいきます。この日は2歳児クラスが4歳児室を使うので、2歳児室に行って遊びます。トイレに行きたい子どもだけがトイレに行き、全員がそろって廊下に並ぶと、保育士が小声で「いいですか?」、子どもたちも小声で「いいですよ」と言い、静かに2歳児室へ行きました。

2歳児室のままごとコーナーの上に、保育士と園長がビニールの屋根をつけました。ぐっと落ち着いた雰囲気になり、「好きなことをしていいですよ」と保育士が言うと、「ワーイ」と、子どもたちはコーナーに突進して夢中になって遊びます。男女ともエプロン・三角巾をつけたり、スカートをはいたりしてご飯作りです。食事になると、当番の活躍です。「はいぜん」の当番はスープ以外のメニューを全部盛り付けました。

●5歳児クラス

この日は幼児クラスと一緒に散歩に行きました。人工芝の園庭に集まり、5歳児は右側に立って3歳児と手をつないで並びます。園を出て、3、5歳児が先に、4歳児がその後続きます。10分余り歩いて公園に到着です。各クラスが一列に並んで準備体操です。手の上げ下ろし、前後屈、膝屈伸、足首回し、肩回し、首曲げ、そして深呼吸で終わります。そして各クラスに分かれて遊びました。

5歳児クラスはドッチボールです。保育士は、ルールがわからない子どものために丁寧に説明します。ボールをうまく投げられない子どももいますが、みんな楽しそうにやり、1回戦、2回戦、3回戦と、終わるごとに勝ったチームが手を上げて喜びました。次は氷鬼で遊びます。誰が鬼になるかで、子どもたちに「先生も」と言われて、保育士も鬼になり、ほかの2人の子どもと一緒にみんなを追いかけてきました。

食事は卒園児のためのリクエストメニューでした。盛り付けは保育士がちょっと手本を示しただけで、すべて当番の2人が盛り付けました。子どもたちは順番に配膳台の前を左から右へ進み、スムーズに自分の席に主食、スープ、おかず、箸・スプーン・フォークと、一つずつ慎重に運んでいました。

昼食後の自由遊びが終わると、1階に降り、「おそうじチャレンジ」として、廊下の雑巾がけや全クラスの靴置き場の掃除などを全員でおこないました。

◆ 事業者コメント ◆

開園して3年目で、初めて第三者評価の審査を受けました。受審にあたり、園で務めている全スタッフが設問に対してゆっくり時間をかけて向き合い、考えをまとめました。まとめたものを園長・主任とで話し合い、園で一つのものにしました。話し合っていく中で気付かされることが多く、改善点が多くありました。課題として、日々の保育の習慣化や求められる保育園像を改めることがあがりました。地域のニーズを把握し、何が自分たちに出来るのかを考え、今後の保育園としての取り組みに反映していきたいと思います。

調査員の方々には保育の良い点やご指導を頂き感謝申し上げます。また、安心して受審出来るよう調整をしてくださった事務局の方にもお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますが、保護者の方々にはお忙しい中、アンケートのご協力ありがとうございました。様々なご意見やお褒めの言葉を頂きました。真摯に受け止め、改善に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

太陽の子 不動下保育園
園長 山口 俊孝

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ Email : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
